熊本大学文学部附属
永青文庫研究センター

年　　報

第6号

2015

熊本大学文学部附属永青文庫研究センター

はじめに

本年度は、2009年４月に設置された永青文庫研究センターにとって、第２期５年の初年度にあたり、第１期の５年間に取り組んだいくつかの課題が、陽の目を見た１年間となった。

第一は、熊本大学寄託永青文庫資料総目録の完成である。これは、本センターが発足以来、最重要課題と位置づけてきた事業である。文書、記録、書籍、絵図・地図・指図等、膨大な各種資料を一点残らず登録し、年代、作成者・受給者、内容等に関して、可能な限りの情報を入れ込んだ電子データ目録が完成しつつある。その全貌は、2015年度の早い時期に公開する予定である。そしてごく近い将来、電子データとして多くの方々に利用して頂くことが可能となるよう、環境を整えるのが、本センターの次なる課題となる。それが実現されれば、永青文庫資料を活用した研究は飛躍的に進展することになろう。

第二は、熊本県立美術館、公益財団法人永青文庫との共催による「細川コレクション 信長からの手紙」展の開催（2014年10月10日～12月14日、熊本県立美術館）と、熊本大学附属図書館との共催による、第30回 熊本大学附属図書館貴重資料展「誓いを立てる武士たち 細川家血判起請文の世界」（2014年11月１日～３日）の開催である。

前者は、永青文庫研究センター編『永青文庫叢書 細川家文書 中世編』（吉川弘文館、2010年）以来の、本センターの信長文書研究を集大成する展覧会となった。後者は、同『永青文庫叢書 細川家文書 近世初期編』（吉川弘文館、2012年）にまとめられた研究成果による展覧会で、近世初期大名家研究に一石を投じる内容となった。

他機関との連携によって研究成果を社会一般に公開するという、本センターの事業の大きな柱について、確実な成果をあげた。なお、二つの展覧会とも、2015年の前半に、東京都文京区の永青文庫にも巡回して開催された。「熊本発東京行」の展覧会は、永青文庫資料の熊大寄託以来はじめてのことであり、特筆される。今後も、本センターから社会への成果発信を継続していく所存である。

第三に、社会一般への発信という点では、テレビ番組「くりぃむしちゅーの歴史新発見 信長59通の手紙を解読せよ」の日本テレビ系での全国放送（2015年２月12日）があげられる。この番組は、日本テレビにおける企画立案から放送まで３年もの時間を要し、本センターの研究活動をあらゆる年代層に向けて広く発信する役割を果たした。視聴率は関東地区（日本テレビ）12.8%、熊本地区（KKT）19.2% を記録した。

第四に、本センターを拠点とした共同研究の成果の学界への発信である。2013年11月30日、12月１日に熊本大学で開催された「シンポジウム 日本近世の領国地域社会」の書籍化を実現した。論文執筆陣には、細川家文書を研究する多くの研究者が名を連ねている。なんといっても研究活動こそが本センターのあらゆる活動の基礎をなすものであり、今後とも、本センターが日本近世史の研究拠点としての内実と評価を得ることができるよう努めたいと思う。

以上の成果を前提に、本センターの第二期は、新しい段階の研究活動・社会的活動に進んでいくことになろう。

2015年２月25日

熊本大学文学部附属永青文庫研究センター長

稲葉　継陽

目　　次

はじめに …… 1

1．年間活動記録 …… 4

2．年間活動報告 …… 7
(1) 総目録作成事業 …… 7
(2) 研究活動 …… 11
(3) 展覧会・講演会活動 …… 12
(4) その他 …… 13

3．個人年間活動 …… 15

4．研究ノート
後藤典子　史料紹介 細川家文書にみる近世初期のキリシタン穿鑿の実態
―― 金川惣左衛門尉同類の穿鑿一件 ―― …… 17
徳岡　涼　飛鳥井家からの蹴鞠聞書
「飛鳥井殿江聞書百六拾貳箇條」紹介 …… 62

1．年間活動記録

日　付	打合せ・報告内容・講演会等	打合せ先等
2014年４月７日	スタッフミーティング	センタースタッフ
４月21日	スタッフミーティング	センタースタッフ
５月７日	信長からの手紙展他、研究打合せ	有木（県美）・山田（県美）・宮川（県美）・稲葉・後藤
５月12日	スタッフミーティング	センタースタッフ
５月14日	熊本日日新聞取材	浪床（熊日）・稲葉
５月20日	信長からの手紙展　研究打合せ	山田（県美）・稲葉・後藤
５月21日	永青文庫常設展示基金運営委員会	稲葉
５月26日	スタッフミーティング	センタースタッフ
５月30日	センター運営委員会	稲葉
５月31日	『日本近世の領国地域社会』出版へ向けての研究打合せ	今村（静岡大）・籠橋（東北大）・小関（千葉大）・白石（宮内庁）・高槻（神戸大）・藪田（関西大）・稲葉・松崎・三澤（文学部）・吉村（元文学部）
６月３日	熊本城調査研究センターと研究打合せ	稲葉・藤本
６月９日	スタッフミーティング	センタースタッフ
６月10日	講演打合せ	稲葉
６月11日	九州大学所蔵細川家関連文書　集中調査	有木（県美）・山田（県美）・稲葉・後藤
６月23日	スタッフミーティング	センタースタッフ
６月24日	上天草市と研究打合せ	稲葉
７月１日	資料調査のため高槻准教授（神戸大）来訪	稲葉
７月４日	肥後銀行と研究打合せ	稲葉
７月７日	スタッフミーティング	センタースタッフ
７月28日	スタッフミーティング	センタースタッフ
８月１日	図書館にてNHK番組の撮影	稲葉

日　付	打合せ・報告内容・講演会等	打合せ先等
８月４日～８日	文学関係調査のため山田尚子准教授（成城大）来訪（４，５，６，８日）	徳岡
８月19日	永青文庫事務長　岩水氏来訪	稲葉
８月25日	資料調査のため東京大学の教授来訪	稲葉
８月27日	スタッフミーティング	センタースタッフ
８月29日	信長からの手紙展　研究打合せ	山田（県美）・稲葉・後藤
９月１日～５日	歴史資料集中調査（丁数数え）	社会人４名・学生９名 稲葉・後藤
９月２日	文化庁調査官来訪	稲葉
９月24日	スタッフミーティング	センタースタッフ
10月１日	熊本城調査研究センター所長来訪	稲葉
10月３日	信長文書発見の記者会見	熊本県立美術館・東京大学史料編纂所・稲葉
10月10日	熊本県立美術館にて「信長からの手紙展」開催（～12月14日）	稲葉・後藤
10月14日	熊本日日新聞　取材	浪床（熊日）・山田（県美）・稲葉
10月15日	スタッフミーティング	センタースタッフ
10月18日	特別講演会「細川家伝来の織田信長文書」開催	熊本県立美術館・稲葉
10月29日	スタッフミーティング	センタースタッフ
11月１日	第30回貴重資料展「誓いを立てる武士たち－細川家血判起請文の世界－」開催（～３日）	来場者：391名
	第９回永青文庫セミナー「近世初期細川家血判起請文の世界」開催	熊本大学附属図書館１F、稲葉　参加者：92名
11月４日	くまもと県民テレビ　打合せ	稲葉
11月10日	くまもと県民テレビ　打合せ	山田（県美）・稲葉
11月19日	スタッフミーティング	センタースタッフ
12月３日	スタッフミーティング	センタースタッフ
12月10日	打合せ	山田（県美）・稲葉

日　付	打合せ・報告内容・講演会等	打合せ先等
12月17日	スタッフミーティング	センタースタッフ
2015年１月６日	永青文庫にて「重要文化財指定記念「信長からの手紙」～細川コレクションの信長文書59通、一挙公開！～」展 開催（～３月15日）	
１月14日	熊本大学プロモーションビデオ　撮影打合せ	稲葉
１月22日	くまもと県民テレビ　撮影 『日本近世の領国地域社会　熊本藩政の成立・改革・展開』発刊	稲葉 今村（静岡大）・籠橋（東北大）・小関（千葉大）・白石（宮内庁）・高槻（神戸大）・藪田（関西大）・稲葉・松崎・三澤（文学部）・吉村（元文学部）
１月24日	特別講演会「信長からの手紙―細川コレクション重要文化財の信長文書―」	和敬塾 山田（県美）・三宅（永青文庫） 稲葉
２月８日	「歴史が変わる⁉くりぃむ＆倉科カナ　織田信長の手紙解読SP」放送	稲葉
２月12日	日本テレビ系列にて「くりぃむしちゅーの歴史新発見　信長59通の手紙を解読せよ」放送	稲葉
２月16日	文学関係調査のため山田尚子准教授（成城大）来訪（～18日）	德岡
	熊本大学プロモーションビデオ撮影	稲葉・藤本
２月23日	表千家青年部石田氏来訪、講演について打合せ	稲葉
	日本テレビ岡田氏来訪、「くりぃむしちゅーの歴史新発見　信長59通の手紙を解読せよ」放送後の打合せ	稲葉・後藤
２月26日	今後の受託研究について打合せ	溝辺（県庁）・稲葉
２月27日	センター運営委員会	稲葉
３月６日	スタッフミーティング	センタースタッフ
３月21日	永青文庫にて「細川家起請文の世界」展開催（～６月28日）	

２．年間活動報告

⑴ 総目録作成事業

本センターの発足以来取り組んできた資料総目録の刊行準備が、ついに整った。全体は2015年度の早い時期に公表される。代表的な国持大名家史料群の詳細目録の学界への提供は、日本史学の発展への大きな貢献となる。

本目録は、熊本大学文学部附属永青文庫研究センターが2009年から６年間にわたって実施した、熊本大学附属図書館寄託永青文庫細川家資料（以下、永青文庫資料という）の調査事業の成果を総括した目録である。

本センターは、永青文庫資料の総合的な研究を通じて当該資料に立脚した拠点的研究を組織し、かつ文化行政機関等との連携によって地域文化振興に貢献し、もって人文社会科学系分野を中心とした研究及び文化振興の発展に寄与する人材の育成に資することを目的として、設置された。今回の目録作成のための調査事業は、本センターの研究事業の柱として、次の二種類の研究資金を活用して推進された。

１．永青文庫常設展示基金（熊本県教育庁文化課所管2009～2014年度）
２．科学研究費補助金基盤研究（Ａ）
「永青文庫細川家資料の総合的解析による大名家資料学の構築」
（研究代表者：稲葉継陽2010～2014年度）

永青文庫資料は、資料群としての規模の大きさもさることながら、内容もじつに多様である。総目録作成を遂行するには、その多様さに対応するため、センターのスタッフの専門性に即して、「歴史資料」「文学・文芸・故実芸能資料」「絵図・地図・指図資料」の各担当班に分かれて、並行して作業をすすめる必要があった。また、目録の刊行も、「歴史資料編⑴～⑶」「文学・文芸・故実芸能資料編／絵図・地図・指図編」という、資料の性格による３部・４分冊構成（「歴史資料編」で３冊、「文学・文芸・故実芸能資料編／絵図・地図・指図編」が１冊）をとることになった。

2009年、調査はまず資料一点ごとの調書の作成から開始された。この基礎調査と調書作成は、永青文庫研究センターのスタッフによる日常の作業とともに、年に10～15日間実施した資料集中調査によって行われた。

2010年からは、調書作成と並行して、調書のチェックとデータ化の作業を開始し、2014年１月までには、すべての作業を終えた。

「歴史資料編」全３分冊については、2015年３月に印刷・納品となった。

「文学・文芸・故実芸能資料編」「絵図・地図・指図編」（併せて１冊）については、2015年５月末に印刷・納品される予定である。

本目録は、1969年に刊行された「永青文庫細川家旧記・古文書分類目録 正篇」の成果を前提にしつつも、同目録では一括登録処理されていた歴史資料にはすべて枝番号を付して一点ご

とに登録し、また、資料の内容についても、その資料の概要が可能な限り把握しうる情報を掲載するようつとめた。

本目録公開によって、永青文庫資料の活用・研究は、新しい段階に入ることになるであろう。

「歴史資料編」に収録した資料点数は39,666点である。

2015年度の印刷となった「文学・文芸・故実芸能資料編」「絵図・地図・指図編」について、以下にその概要、及び2014年度の作業内容を記録しておく。

文学・文芸・故実芸能編（竹島一希・徳岡　涼）

2013年度までに、文学、芸能、有職故実関係の典籍類に関しては、悉皆調査を終え、データー入力件数6200点余であった。しかしながら、これは国文学研究資料館の細目カードにもとづいたデーター件数であって、１冊１点のデーターではないため、出来るだけ書写本は、１冊１点のデータになるように再調査を行った。

また、明治本に関しては、調査はほぼ完了していたものの、データー入力が不十分であったため、国文学研究資料館のＣカードにもとづいて、入力を行った。

これらの作業は、竹島・徳岡の両名が継続的に行ったが、成城大学の山田尚子氏に、2014年８月４日～８日、2015年２月16日～18日にかけて、漢籍・日本漢籍・準漢籍を中心に、再調査のご助力を得た。

以下、データーは、杉部屋、地下１階、地下２階の３ブロックに分割されているので、それぞれのデーターから特筆すべき事と、それぞれの概要についてとりまとめておく。

【杉部屋　2220件】

細川幽斎自筆の文学、有職故実関係の典籍、あるいは幽斎の蒐集にかかるとされる典籍、細川三斎関係の謡本など、室町末期～江戸初期にかけての典籍が配架され、一部は県指定重要文化財が別置されている（杉３の列）。また、重賢関係の謡本・漢籍も収蔵される。江戸前期写の絵巻物、画帖などもここに蔵されている。

なお、典籍ばかりでなく、歴代藩主の手にかかる、短冊・色紙・歌稿・詩稿類も1000点以上がここに蔵される。これらは藩主自身の詠歌である場合と、古今集や三十六歌仙合など古典を書写したものとがある。

【地下１階　3293件】

竹原家に伝来したものを中心に、有職故実関係の書写本がその大半を占める。中に幽斎奥書の太鼓伝授書なども混在しているために、注意が必要である。次いで、重賢周辺の鷹書、俳書も纏まっている。そのほか、編年史・法制・経済・外交・産業関係と、多岐に渡る。地下１階のものは、その殆どが、書写本で、刊本は稀であるが、法帖がひとまとまり、和漢三才図絵もある。細川藩関係の系譜・事蹟類は、歴史班と重複調査の部分も300件ほどある。

【地下２階　1940件】

検鈍箱入りの歌書、謡本、諸芸、宗教関係書、編年史、明治期の教科書類が配架され、その殆どが刊本である。二十一史、大日本史、また、類題和歌集、湖月抄、南総里見八犬伝など、大部な刊本も多い。

これらは、「細川家旧記古文書分類目録」において登録され番号が付されているものと、これまで登録されていなかったものとに分けられる。登録されていたものに関しては、その番号を生かし、そうでないものについては、仮番号を付け整理した。

版本以外で特記すべきは、清源院の香道関係のもの、細川志津子の写経等と、藩主令嬢の書写本も散見される。更に、通勝写と推される謡本もあり、これは遅くとも江戸初期写ということになる。

また、江戸中期から後期にかけての公家による短冊・色紙も200点余りあり、すべて中性紙の紙箱に入れ替えた。

絵図・地図・指図編（藤本豊治）

【目録作成作業】

2014年度は、昨年度までに各研究部門で作成した目録礎稿データをもとに、共同で原本とデータとの照合、その際必要に応じて追加・補充調査などを行い目録の完成を目指した。

絵図・地図研究部門が作成した目録データは、2014年度２月現在で1,568点である。但し、これには目録の利便性を考慮して、箱や袋などに絵図と一括されている文書や他の研究部門との重複するものも含んでおり、また現段階では便宜上、箱や袋、包紙などもすべて一律に１点と扱っている。最終的には今年度３月までに、データ形式などを整え確定させる予定である。

【絵図・地図・指図資料の概要】

永青文庫所蔵の「絵図・地図・指図」資料の主だったものについては、既に『永青文庫叢書細川家文書　絵図・地図・指図編Ⅰ』と『(同）絵図・地図・指図編Ⅱ』に図版と解説を、また年報の第２～４号にも紹介しているのでこれらを参照されたい。そこで、本書では、資料群としての数量的な全体構成を、地域及び分類ごとの数量的な分布を以下に示す。なお、表は2013年２月までに作成し『(絵図・地図・指図編Ⅱ』に掲載したもので、全ての資料を網羅していないが、大まかな傾向をつかむには有効である。また、その後の調査で得られた知見で考慮すべきものはコメント覧に記した。

(1) 領国・地域ごとの分布

肥後入国以前	山城・丹後	6(0) 点	0.6%
	豊前	4(0) 点	0.4%
肥後入国以後	肥後	455(2) 点	45.0%
	豊後	25(0) 点	2.5%
	江戸	165(39)点	16.7%
	京都・伏見	10(3) 点	1.0%
	大坂	8(1) 点	0.8%
	長崎	7(0) 点	0.7%
	その他	319(37)点	32.3%
		合計 989(82)点	

肥後入国以前のものは10点と少ないが、小倉城と宇佐宮の寛永年間作成の同時代資料が３点存在する。
肥後入国以後は、肥後と江戸以外の地域が非常に少なく、藩邸では大坂蔵屋敷の指図が１点存在するのみである。

(2) 領国・地域内での構成

肥後	①国・郡絵図など	71(0) 点	16.0%

	②川絵図など	7(0) 点	1.6%
	③街道図など	13(0) 点	2.9%
	④城下図など	20(2) 点	4.5%
	⑤櫨場図	24(0) 点	5.4%
	⑥鷹場・狩場図	26(0) 点	5.8%
	⑦熊本城関係	40(0) 点	9.0%
	⑧八代城関係	16(0) 点	3.6%
	⑨国許屋敷・御茶屋など	51(0) 点	11.5%
	⑩寺社関係	51(0) 点	11.5%
	⑪学校・学事	24(0) 点	5.4%
	⑫町屋・民家など	25(0) 点	5.6%
	⑬その他	77(0) 点	17.3%
	合計	445(2) 点	

①、②、④、⑦については、廃藩置県後に現用図として熊本県に移管されたものが、熊本県立図書館にも多数存在する。
⑨には花畑屋敷の建築指図が13点含まれる。その後の調査で、披雲閣（花畑屋敷）と二丸屋敷の改築などに関する小図が50点ほど確認された。
③、⑨の御茶屋、⑩、⑫には、幕府巡見使や遊行上人のために作成されたものも多く含まれている。
⑬には、災害図、竹迫城や隈部館の古図などがある。

江戸	①城下図など	40(39)点	24.2%
	②江戸城関係	31(0) 点	18.8%
	③江戸屋敷関係	81(0) 点	49.1%
	④社寺関係	12(0) 点	7.2%
	⑤その他	1(0) 点	0.6%
	合計	165(39)点	

③には、江戸屋敷の建築指図が31点含まれる。②は、対面の儀式・典礼に関するものが多く、その後の調査でも100点ほど確認している。

その他	①世界図	45(13)点	14.1%
	②日本全図	2(2) 点	0.6%
	③国・郡絵図など	42(0) 点	13.2%
	④川絵図など	2(0) 点	0.6%
	⑤街道図など	11(0) 点	3.4%
	⑥航路図	11(0) 点	3.4%
	⑦名所・旧跡・道中図など	22(22)点	6.9%
	⑧相模湾船備関係	20(0) 点	6.3%
	⑨合戦図・城絵図関係	73(0) 点	22.9%
	⑩武具・甲冑	15(0) 点	4.7%
	⑪船舶図	30(0) 点	9.4%
	⑫測量関係	12(0) 点	3.8%
	⑬その他	34(0) 点	10.0%
	合計	319(37)点	

③は、その後の調査で、１箱に53点一括された国絵図が確認された。
⑤は、参勤交代や長崎までの経路。
⑥は、参勤交代や西国巡見使の経路、肥前竹崎－長崎間を記したもの。
⑨は、甲陽軍鑑の付図やその他の写しで、軍学関係の収集資料。
⑪は、参勤交代で使用した御座船の設計図15点が含まれる。

（表の凡例　（　）：版本の点数、％：割合は少数第２位を四捨五入）

(2) 研究活動

稲葉継陽・今村直樹編『日本近世の領国地域社会』の刊行

2015年２月、稲葉継陽・今村直樹編『日本近世の領国地域社会―熊本藩政の成立・改革・展開―』を2015年２月１日付で吉川弘文館から刊行した。2013年に内外の研究者を招いて開催したシンポジウムの内容を基礎にし、永青文庫細川家資料を活用した日本近世史研究の最先端の成果を示している。

肥後細川家などの国持大名クラスの領国に成立し、藩政と対応しながら展開される百姓的な政治社会を指す「領国地域社会」。熊本藩伝来の「永青文庫細川家文書」を駆使して、17世紀から転換期としての宝暦改革前後、さらに幕末維新期まで、200年間以上に及ぶ領国地域社会の展開過程を11本の論考によって描き、日本近世社会の特質を分析した（吉川弘文館刊、総頁数三〇七）。

構成は以下のとおりである。

序章　「領国地域社会論」の提起と本書の構成…稲葉継陽（永青文庫研究センター）
第１部　藩政の成立・改革と領国地域社会
　第１章　17世紀における藩政の成立と特質―藩政改革の歴史的前提― …稲葉継陽
　第２章　熊本藩宝暦改革の歴史的位相―近代文書行政への転回点として宝暦改革―
　　…吉村豊雄（熊本大学）
　第３章　近世期市場経済の中の熊本藩―宝暦改革期を中心に― …高槻泰郎（神戸大学）
　特論１　城下町研究・地域運営論から「領国地域社会論」へ
　　…松﨑範子（永青文庫研究センター）
　特論２　領国地域社会の中間支配機構について …籠橋俊光（東北大学）
第２部　藩政改革論・領国地域社会論の展開
　第１章　細川重賢明君録からみえる熊本藩政改革―明君像の形成と士民の規範化をめぐって― …小関悠一郎（千葉大学）
　第２章　近世後期の手永会所と地域社会―領国地域行政機構論―
　　…今村直樹（静岡大学）
　第３章　幕末肥後藩の政治活動とその背景―蒸気船購入問題を中心に―
　　…白石　烈（宮内庁書陵部）
　特　論　熊本藩領社会を「領国地域社会論」から見つめ直す …三澤　純（熊本大学）
終章　地域社会論と「領国地域社会」…藪田　貫（関西大学）
あとがき …今村直樹

本書は、2009年に刊行した吉村豊雄・三澤純・稲葉継陽編『熊本藩の地域社会と行政』（思文閣出版）の内容を前提に、外部の研究者を招いた共同研究チームを組織し、得られた成果を「領国地域社会論」として積極的に提起し、日本近世社会論のうちに定置するための第一歩を踏み出そうとしたものである。

「領国地域社会」の内的特質は、16世紀以来の地域社会の持続性と特定大名家による支配の継続性である。一方、大坂米市場との相互依存関係、改革主体形成の前提となる自分仕置権の幕府からの保証、そして幕末維新期政局からの参加要請、これら三点を「領国地域社会」が有

する対外的特質として指摘しうる。こうした内的特質と対外的特質を踏まえれば、「藩地域」論一般とは区別された「領国地域社会論」を提起することの意義と有効性が理解できる。

熊本藩領国に代表される「領国地域社会」は、近世社会における支配形態の諸類型のうちで大きな物理的比重を占める国持大名の領国に展開した。土地所有と行政権とが一体化して長期維持された国持大名の支配形態は、近世社会の支配諸形態のうちの最右翼と評価される。したがって、「領国地域社会」を対象とした分析の蓄積と深化なしには、近世社会論の総体的な進展は不可能だといわざるを得ない。

今後もこうした観点を踏まえながら、熊本藩研究の成果を日本近世社会論全体の中に位置づける作業を継続していきたい。

(3) 展覧会・講演会活動

1）細川コレクション「信長からの手紙」

2014年10月10日から11月14日まで、永青文庫・熊本県立美術館との共催で、細川コレクション「信長からの手紙」展（熊本県立美術館）を開催した。

これは、2013年に国重要文化財に指定された永青文庫の信長発給文書59通を一挙公開する企画であった。この企画には、永青文庫研究センター編『永青文庫叢書 細川家文書 中世編』（吉川弘文館、2010年）、「没後400年 古今伝授の間修復記念 細川幽斎展」（熊本県立美術館と共催、2010年）以来の信長発給文書に関する研究成果が総括・反映されていた。

展示とともに特筆されるのは、図録である。細川家伝来の信長発給文書全点、及び旧家臣筋に伝来した信長文書等の写真を網羅し、翻刻文と詳細解説を付しており、当該文書群研究の決定版的内容を有する。本センターからは稲葉継陽が文書翻刻を担当し、多くの作品解説と総論「細川家伝来の織田信長文書」を寄稿し、後藤典子が文書翻刻と校正を担当した。

また、2014年10月18日には稲葉継陽が県立美術館にて講演「細川家伝来の織田信長文書と戦国社会」を行った。

なお、本展覧会は2015年１月６日から３月15日まで、東京・永青文庫でも開催され、好評を博した。

2）第30回 熊本大学附属図書館貴重資料展「誓いを立てる武士たち 細川家血判起請文の世界」

2014年11月１日から３日まで、熊本大学附属図書館において「誓いを立てる武士たち―細川家血判起請文の世界―」を開催した。

起請文とは、みずからの主張や約束が偽りなきことを誓約するための文書の様式で、中世初期に成立し、江戸時代を通じて作成された。前半部分に主張・約束の内容を記し（「前書」）、「牛王宝印」と呼ばれる護符（多くは熊野神社のもの）を裏返して、約束の内容に偽りなきことを神仏にかけて誓う文言（「神文」）を書き、貼り継ぐのが一般的で、戦国時代には、誓約者（差出人）の血判を伴うようになった。

熊本大学寄託永青文庫細川家文書のうちには、家臣たちが主君や上役に提出した血判起請文が、元和10年（1624）から明治３年（1869）まで、約270通も伝存している。じつにそのうち106通は、第二代当主細川忠興（三斎）の正保２年（1646）の死去までの間に提出されたものである。こうした家臣団起請文のあり方は、初期の細川家が、忠興をめぐるいわば「御家騒動」的な状況を克服することで、17世紀後半以降の安定期を実現したことを物語っている。

戦国から江戸時代への大きな時代の転換に際して、武士たちの価値観はどう変化したのか。「天下泰平」の時代の武士たちが命をかけて手に入れようとしたものは何か。家老から御毒見役まで、100人以上もの血判起請文を通覧することで、転換期における武士たちの組織観、生き方の変化にせまった。

また、11月１日には附属図書館にて、「第９回永青文庫セミナー」として、稲葉継陽の公開講演「近世初期細川家 血判起請文の世界」がなされた。展示内容については本展覧会解説目録を、講演内容については、稲葉「近世初期細川家臣団起請文にみる熊本藩「国家」の形成」（工藤敬一編『中世熊本の地域権力と社会』高志書院、2015年、収録）を参照されたい。

講演会も含めて、３日間の展覧会来場者は約400人に達した。

なお、本展覧会も2015年３月21日から６月28日まで、東京・永青文庫で開催される。

(4) その他

「くりぃむしちゅーの歴史新発見 信長59通の手紙を解読せよ」の日本テレビ系での放送

本番組は、2015年２月12日 19：00～20：54に放送された。

本センターにおける永青文庫所蔵織田信長文書の研究過程とその成果を、再現ドラマや展覧会場（東京・永青文庫）での解説によって示しながら、バラエティー的要素も加えて、あらゆる年齢層にわかりやすく提示した番組となった。

そもそもこの番組は、日本テレビ開局60周年記念特番として企画され、2014年１月に放送される予定であった。しかし、様々なアクシデントが重なり、放送が約13か月も延期になった。企画立案から放送まで３年を要したことになる。

番組制作側（日本テレビ及び関連会社）は、本センターの日常の研究・調査活動等に密着取材し、また、センター専任教員やスタッフから信長文書研究の実態を聞き取り、講演会を撮影するなど、真摯な態度で取材を重ねた。本来は21時台の放送を予定して制作を進展させていたが、放送延期によって、放送時間帯が19時台へと変更になったため、バラエティー的な要素が加味されることとなった。しかし、放送時間帯の変更とバラエティー的要素の加味が、かえって若年層や高齢層への関心を呼び起こした面がある。この点は幸いであった。

番組の内容自体は、当初の企画・制作段階での方針から基本線は変更されておらず、歴史学の研究方法の興味深さや、地方大学での教育研究活動への取り組み方とその成果などを、世代や知識量の違いをこえて、あらゆる人々に伝えるものとなっていた。

今後も、本センターの活動を社会的にアピールして、日本史の研究拠点として社会的認知を得るためにも、良質なコマーシャリズムに裏打ちされた広報活動には積極的に取り組んでいきたい。

なお、本番組の視聴率は以下のとおりであった。

NTV（関東）	12.8%	YTV（関西）	12.3%	CTV（中京）	12.6%
STV（札幌）	7.8%	MMT（仙台）	9.7%	FCT（福島）	9.6%
TeNY（新潟）	8.6%	SDT（静岡）	13.0%	RNC（岡・香）	10.7%
HTV（広島）	11.3%	FBS（九州）	7.7%	KKT（熊本）	19.2%

2）米田家文書中の織田信長関係新史料の発見と記者会見（2014年10月３日）

細川コレクション「信長からの手紙」の準備の過程で、旧細川家臣筋の米田家の所蔵文書を熊本県立美術館・東京大学史料編纂所と共同で調査した際、信長が永禄９年（1566）に足利義昭を奉じた上洛を計画し、実行直前に頓挫していた事実を示す古文書を発見した。

本センターと県立美術館が10月３日に熊本県庁で記者会見して発表した。

記者会見の内容はテレビ各社、新聞各紙上で放送され、大きな社会的関心を呼び起こした。詳細は同日付「熊本日日新聞」夕刊を参照されたい。

なお、この調査では、米田家文書中に明智光秀の初出史料が含まれることも判明した。信長上洛以前の光秀の活動を考察する上で重要な発見である。その詳細は、2015年２月26日の熊本県民テレビ「テレビタミン」において紹介された。

このように、信長関係史料の調査研究成果をメディアを通じて公表する活動に、積極的に取り組んだ。

３．センター教員の年間活動

稲葉継陽

各種委員会

人吉城跡調査検討委員、佐敷城跡調査検討委員、陣の内館跡調査検討委員、宇土城跡調査検討委員、熊本市文化財保護委員、上天草市史編纂委員、肥後銀行本店ギャラリー準備委員

編著書

・『日本近世の領国地域社会―熊本藩政の成立・改革・展開―』（今村直樹と共編、吉川弘文館、2015年２月）

・『中近世の領主支配と民間社会』（三澤純、花岡興史と共編、熊本出版文化会館、2014年）

論文

・「細川家伝来の織田信長文書」（『重要文化財指定記念 細川コレクション 信長からの手紙』（図録）2014年、収録、pp.9-16）

・「「領国地域社会論」の提起と本書の構成」（稲葉継陽・今村直樹編『日本近世の領国地域社会』吉川弘文館、2015年２月、収録、pp.1-11）

・「17世紀における藩政の成立と特質―藩政改革の歴史的前提―」（稲葉継陽・今村直樹編『日本近世の領国地域社会』吉川弘文館、2015年２月、収録、pp.14-47）

・「近世初期細川家臣団起請文にみる熊本藩「国家」の形成」（工藤敬一編『中世熊本の地域権力と社会』高志書院、2015年２月、収録、pp.109-131）

講演

・「日本史研究の最前線―永青文庫細川家史料群から―」第53回全国自治体病院協議会九州地方会議 特別講演、KKR ホテル熊本、2014年７月11日

・「永青文庫細川家資料の世界とその可能性」図書館文化史研究会大会講演、2014年９月６日、熊本学園大学

・「細川家伝来の織田信長文書と戦国社会」熊本県立美術館「信長からの手紙」展 講演、2014年10月18日、熊本県立美術館

・「近世初期細川家 血判起請文の世界」第９回永青文庫セミナー講演、2014年11月１日、熊本大学附属図書館

・「永青文庫細川家資料の世界とその可能性」第４回熊本大学関西連合同窓会 特別講演、2014年11月29日、大阪太閤園

・「熊本城惣構と高麗門―濫妨狼藉と城の機能―」熊本地名研究会例会、2014年12月14日、熊本市中央公民館

・「細川家伝来の織田信長文書と戦国社会」永青文庫冬季展「重要文化財指定記念 信長からの手紙」展特別講演会、2015年１月24日、東京・永青文庫

・「細川家伝来の織田信長文書の魅力」歴史文化倶楽部講演、2015年２月７日　熊本県伝統工芸館

新聞寄稿

・「信長文書のここが面白い」『熊本日日新聞』2014年11月10日 朝刊

・「想像力のスイッチ　オンに」『熊本日日新聞』2014年12月13日 朝刊

三澤　純

各種委員会

熊本県議会史編纂委員、熊本県立図書館・近代文学館展示アドバイザー

編著書

・『中近世の領主支配と民間社会』（稲葉継陽、花岡興史と共編、熊本出版文化会館、2014年）

論文

・「明治維新期の熊本藩惣庄屋集団の意見書について」（稲葉継陽・花岡興史・三澤純編『中近世の領主支配と民間社会』熊本出版文化会館、2014年、収録、pp.423-459）

・「熊本藩領社会を『領国地域社会論』から見つめ直す」（稲葉継陽・今村直樹編『日本近世の領国地域社会』吉川弘文館、2015年、収録、pp.273-290）

・「近代日本の高等教育と第五高等学校」（「熊本城400年と熊本ルネッサンス」県民運動本部編『新肥後学講座』熊日出版、2015年、収録）

講演

・「江戸時代の御船の繁栄―永青文庫所蔵の絵図から考える―」御船町商工会主催講演会、2014年８月23日、於御船街なかギャラリー

・「『歴史』と『現在（いま）』が繋がる時」熊本学園大学付属高校「学部学科研究会」、2014年10月18日

竹島一希

共著書

・島津忠夫監修　大村敦子・岡本聡・押川かおり・加賀元子・島津忠夫・竹島一希・畑中さやか・米田真理子著『心敬十体和歌 評釈と研究』（和泉書院、2015年）

論文

・「宗祇『当年之発句』（滋賀県正巌寺蔵）」（「連歌俳諧研究」127号、2014年９月、島津忠夫と共著、pp.28-32）

・「「正直」に関する覚え書き」（「浪速文叢」25号、2015年１月、pp.26-33）

徳岡　涼

非常勤講師等

熊本県立大学文学部非常勤講師、熊本市医師会看護学校非常勤講師（文学）、人間文化研究機構国文学研究資料館平成26年度共同研究員・日本古典文学における〈中央〉と〈地方〉

論文

・「宇治十帖と七夕の歌について」『国語国文学研究』熊本大学国語国文学会、第50号　2015年３月

講座

・「平安文学～源氏物語を読む～」熊本公徳会カルチャーセンター、月２回、於びぷれす熊日会館

・「古今和歌集を読む」熊本公徳会カルチャーセンター、月２回、於びぷれす熊日会館

永青文庫研究センター年報
第６号（2014年度）
発行日：2015年３月31日
発行者：熊本大学文学部附属
永青文庫研究センター
〒860－8555
熊本市中央区黒髪2－40－1
TEL　096－342－2304
印刷所：シモダ印刷株式会社